

平成28年度事業計画 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

本会は、定款の目的、第3条の「この法人は、我が国におけるバドミントン界を統括し、代表する団体として、バドミンントンの普及発展を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。」に沿って事業計画を実施する。

バドミントン競技を愛好する多くの人たちに普及振興、競技力向上の機会を提供し、選手のみならず役員等支援する人など各種競技会への参加、組織作りを通じて広くバドミントン競技の普及を図り、会員拡大を推進する。(目標30万人)

また、今年は、「2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック」を迎え、更なる競技力向上を図りメダル獲得を目指し、スポーツ愛好者と、バドミントン競技者に夢と希望を与え、更なる向上心の醸成とバドミンントンの普及発展につなげるものとする。

1. バドミンントンの普及及び指導

(1) 第25回全国小学生バドミントン選手権大会

スポーツ振興及び普及はもとよりスポーツを通じた健全育成を目的とした大会で、12月23日から12月27日まで、滋賀県大津市で開催。選手約980名、競技役員延960名。

(2) 第17回全国小学生ABCバドミントン大会

早期よりバドミントンに興味を持たせ、選手の発掘、健全育成、競技力の向上と振興を目的とした大会で、8月12日から8月14日まで、熊本県八代市で開催。選手約330名、競技役員延850名。

(3) 第15回日本バドミントンジュニアグランプリ2016

全国各都道府県ジュニア選手育成の一貫指導体制確立を図るため、小学生、中学生、高校生の優秀な選手を一堂に会して、相互の技能向上と交流、ジュニア層の普及を目的とした大会で、11月25日から11月27日まで、宮城県仙台市で開催。選手約640名、競技役員延720名。

(4) 第32回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

全国の小学生にバドミントン競技への機会を広く提供し、同競技を通じて相互の交流を深め、体力の増強と健全で豊かなスポーツの育成を目的とした大会で、7月29日から8月1日まで、京都府長岡京市で開催。選手約880名、競技役員延920名。

(5) 第46回全国中学校バドミントン大会

中学生に正しい技術の習得を図り、心身の健全な育成を目的とした大会で、各地区男女各24校、約430名が参加、8月17日から8月20日まで、石川県金沢市で開催。競技役員延780名。

- (6) 第17回全日本中学生バドミントン選手権大会
中学生の健全育成に寄与することを目的とした大会で、平成29年3月25日から3月27日まで、岡山県岡山市で開催。選手約450名、競技役員延840名。
- (7) 第45回全国高等学校選抜バドミントン大会
高校生の交流と技術指導を目的とし実施。今回は記念大会のため団体戦は全県出場、個人戦はブロック代表となり、参加者は男女98校約1,000名、平成29年3月22日から3月26日まで、愛知県豊田市で開催。
- (8) 第34回全日本レディースバドミントン選手権大会
バドミンの普及と競技力の向上、また、参加者を通じての啓発を目的とした大会で、7月28日から7月31日まで高知県高知市・南国市で開催。選手約800名、競技役員延680名。
- (9) 第11回全日本レディースバドミントン競技大会（個人戦）
バドミンの一層の普及・発展を目的とした大会で、12月9日から12月11日まで、千葉県千葉市で開催。選手約1,100名、競技役員延960名。
- (10) 用器具検査並びに認定
競技用具を調査、研究及び検査し、規格に合格した用器具を認定して、愛好者の使用の便を図る。
- (11) 競技規則書及びルール教本発行
競技規則並びに諸規程の周知徹底と各都道府県協会または7連盟が審判講習会・審判員資格検定会等を実施する際に使用される2016-2017年版競技規則書「赤本」の発行と3級・準3級公認審判員資格検定会でルールの周知徹底を図るためのルール教本（2016年版 3級・準3級公認審判員資格検定会ルール教本「緑本」）の発行をする。これにより常に新しい競技規則等の正確な資料を提供し、正しいルールに基づく円滑な試合運営の実施と公認審判員有資格者の増員と資質の向上に資するものとする。
- (12) 庶務業務の活性化
全国事務局長会議を開催し、全国の都道府県協会の庶務業務の統一化と活性化を図る。
- (13) 広報活動
都道府県協会との一体化した広報活動と、インターネットを利用した情報提供の内容を充実する。また、情報ネットワーク及びマスメディアなどにより、愛好者の拡大を図るとともに、PR啓発活動を進める。
- (14) 学連助成
全日本学生バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

- (15) 高体連助成
全国高等学校体育連盟バドミントン専門部の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。
- (16) 中体連助成
日本中学校体育連盟バドミントン専門部の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。
- (17) 小学生連盟助成
日本小学生バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。
- (18) 小・中・高一貫指導
「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高一貫の指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を実施する。

2. バドミントンに関する公認審判員及び公認指導者の養成と資格の認定

- (1) 公認レフェリー有資格者の第1種大会への派遣と資質の向上
公認A級・B級レフェリー有資格者を平成28年度実施予定の全ての第1種年次大会(23大会)にレフェリー及びデピュティレフェリーとして派遣し、大会の運営全般の統一性と公正化を図る。平成26年度に創設された国内レフェリー認定委員制度、A級レフェリーの養成と資質の向上を図るためのインストラクター制度を活用し公認レフェリーの養成と資質の向上を図る。
- (2) 公認B級レフェリー養成資格検定会
公認B級レフェリーの未充填都道府県の存在を解消するため、平成28年度は公認B級レフェリー資格検定会を開催する。
- (3) 公認審判員資格検定会
公認審判員技術の向上と正しい競技規則の習得により、円滑な大会運営を図るため、公認審判員資格審査認定委員に委託し、1級審判員資格検定会は本会が主催し、2級・3級・準3級審判員資格検定会は地区ならびに都道府県、7連盟において主催し実施する。
- (4) 公認審判員の資格認定登録
公認審判員資格登録規程による合格者を各級公認審判員に認定し、登録させ、各地で実施する大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営を図る。また、中高生を対象とした準3級公認審判員資格取得者は48,484名に達したが、今後も更なる資格者の取得養成を進めていく。こうした正しい競技規則の習得や審判技術のマスターは、更なるバドミントン技術向上に役立ち、また、各加盟団体が開催する数々の大会において円滑な大会運営に生かされて行くものと確信する。

(5) 国際審判員・レフェリー資格取得試験受講者の養成と国際審判員・レフェリー資格既得者の研修及び活動

国際審判員養成のため、国際審判員資格者養成規程に基づきBAC国際審判員受講有資格者を対象とした国際審判員養成セミナー(講習会)を年に一度ヨネックスオープンジャパンSS開催時に併せて開催し国際審判員資格取得受講者の養成を図るとともに、国際レフェリーインストラクター制度を活用し、資質の向上を図る。既述の活動はバドミントン界における国際貢献に寄与するとともに2020年の東京オリンピック競技運営に多いに貢献するものである。

(6) 公認スポーツ指導者養成講習会

公益財団法人日本体育協会と共催して、公認コーチ(バドミントン2級)、公認上級指導者(バドミントン3級)、公認指導員(バドミントン4級)の養成講習会を開催し、全国各地で活動している指導者に受講を促し、基本的、専門的スポーツ技術の指導と教育を行い、公認指導者資格の取得を推進する。

(7) 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会

各都道府県で開催する公認スポーツ指導者養成講習会で講師を務める者を育成・認定するための公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会を開催する。

(8) 公認スポーツ指導者の資格更新

公益財団法人日本体育協会と共催事業である「公認スポーツ指導者育成事業」の各級養成講習会の合格者を、公益財団法人日本体育協会の「公認スポーツ指導者制度」に登録し、公認スポーツ指導者更新のための義務研修会(4年間に一回受けなければならない)を開催し、資質の向上及び指導体制の充実を図る。

(9) 全国指導者養成担当者会議

各都道府県協会の指導者養成担当者による会議を開催し、公益財団法人日本体育協会が策定した「スポーツ指導者育成事業推進プラン2013」の要請と課題を確認し、2018年度までの指導者育成計画を策定する。

3. 公益財団法人日本体育協会、世界バドミントン連盟(BWF)及びアジアバドミントン連盟(BAC)への加盟と国際貢献

(1) 公益財団法人日本体育協会への代表者派遣

公益財団法人日本体育協会、JOCへの代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、本競技の発展を図る。

(2) 世界バドミントン連盟(BWF)総会等への代表者の派遣

5月に中国・昆山市で開催される年次総会に代表者を派遣し、国際スポーツの振興や本競技の発展を図る。

- (3) アジアバドミントン連盟 (BAC) 総会、理事会等への代表者の派遣
年1回開催される総会に代表者を派遣し、アジアスポーツの振興のため協調し、本競技の発展を図る。また、年3回程度開催予定のBAC理事会に派遣し、BAC事業活動と加盟国全ての普及発展に貢献し、併せて2020東京オリンピック・パラリンピック開催の為の事前準備及び普及宣伝活動を行う。
- (4) 国際貢献
アジアバドミントン連盟傘下のバドミントン発展途上国に対する支援と協力を図るべく、ジュニアレベルの日本合宿等の受け入れ等、国際交流事業を積極的に推進しバドミントンを通しての国際貢献に寄与する。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

- (1) 第66回全日本実業団バドミントン選手権大会
6月29日から7月3日まで福井県勝山市で開催。選手約1,600名、競技役員延980名。
- (2) 第67回全国高等学校バドミントン選手権大会
8月7日から8月12日まで岡山県岡山市で開催。選手約1,000名、競技役員延970名。
- (3) 第4回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会
8月6日から7日まで、神奈川県横浜市で開催。選手約200名、競技役員延150名。
- (4) 第55回全日本教職員バドミントン選手権大会
8月11日から8月15日まで鳥取県鳥取市で開催。選手約780名、競技役員延830名。
- (5) 全国高等学校定時制通信制体育大会第18回バドミントン大会
8月17日から8月20日まで神奈川県小田原市で開催。選手約500名、競技役員延330名。
- (6) 第40回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会
8月20日から21日まで、富山県高岡市で開催。選手約240名、競技役員延430名。
- (7) 第59回全日本社会人バドミントン選手権大会
9月2日から9月7日まで愛知県一宮市で開催。選手約1,000名、競技役員延990名。

- (8) 第35回全日本ジュニアバドミントン選手権大会
9月16日から9月19日まで愛媛県松山市で開催。選手約860名、競技役員延880名。
- (9) バドミントン日本リーグ2016
11月5日から平成29年2月12日までの間、全国各地で開催。選手約320名、競技役員延1,300名。
- (10) 第67回全日本学生バドミントン選手権大会
10月14日から10月20日まで千葉県千葉市で開催。選手約990名、競技役員延1,200名。
- (11) 第33回全日本シニアバドミントン選手権大会
11月12日から11月14日まで東京都八王子市他で開催。選手約3,400名、競技役員延1,140名。
- (12) 平成28年度第70回全日本総合バドミントン選手権大会
11月28日から12月4日まで東京都で開催。選手約280名、競技役員延980名。
- (13) 日本スポーツマスターズ2016バドミントン競技会
公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、9月24日から9月26日まで秋田県美郷町で開催。選手約480名、競技役員延780名。
- (14) 第71回国民体育大会バドミントン競技会
公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、10月2日から10月5日まで岩手県北上市で開催。監督・選手444名、競技役員延680名。

5. バドミントンに関する国際競技会

- (1) ヨネックスオープンジャパン2016
9月20日から9月25日まで東京都で開催。日本選手約70名、外国選手約160名、競技役員延1,550名。
- (2) ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン2016
10月26日から10月30日まで大阪府大阪市で開催。
- (3) 日韓ナショナル交流競技会
5月10日から12日まで香川県坂出市で開催。役員4名、選手男女各8名を迎え競技力向上を図る。

- (4) 日韓高校生交流競技会
5月15日から20日まで、役員4名、選手男女各8名を韓国（場所未定）へ派遣。役員4名、選手男女各8名を迎え12月中旬の味の素トレーニングセンターで開催。競技力向上を図る。
- (5) 日台小学生交流競技会
役員3名、男女各10名の選手を迎え、7月中旬に東京都で開催、競技力向上を図る。

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

- (1) 第29回トマス杯・第26回ユーバー杯
5月12日から5月23日までの12日間、中国 昆山市へ役員7名、選手男女各10名を派遣し、上位入賞を目指す。
- (2) 第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）
8月1日から8月22日までの22日間、ブラジル リオデジャネイロへ役員、選手を派遣し、上位入賞を目指す。
- (3) 台北ジュニア競技会
台北市（期日未定）に役員3名、小学生男女8名を派遣し、競技力向上を図る。
- (4) 第24回日韓中ジュニア交流競技会
8月22日から8月29日までの8日間、役員3名、高校生男女各6名を中国・浙江省 寧波市へ派遣。
- (5) 世界ジュニア選手権大会2016
11月2日から11月13日までの12日間、スペイン ビルバオ市で開催の団体戦、個人戦に役員5名、選手男女各8名を派遣。両種目でメダル獲得を目指す。
- (6) 韓国ジュニアオープン大会
11月中旬の6日間、韓国（役員・選手・場所・期日等未定）に派遣し上位入賞を目指す。

7. バドミントンの競技力の向上

(1) スポーツ医科学研究

公益財団法人日本体育協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター及び強化本部の各部と連携し、バドミントン競技の特性を研究しながら、トレーニング技術や目標を達成するためのメカニズムを明確にしていくとともに、スポーツ医科学のサポートスタッフの養成を促進し、併せて資質とレベルの向上を図り、競技力向上と強化体制を整える。

(2) アンチドーピング対策

JADA（公益財団法人日本アンチドーピング機構）との協力により「日本ドーピング防止規程」によりドーピング検査を実施し、アンチドーピング対策を実施する。

(3) 選手強化

全日本総合選手権大会の成績を中心に各種大会や日本ランキング等を参考にし、2016年リオデジャネイロオリンピック・2020年東京オリンピック対策プロジェクトと位置づけ、ナショナルチームA代表・B代表を男女別に日本代表選手を編成し、国内合宿、海外遠征等により強化を図り、オリンピックでのメダル獲得を目指す。また、競技者育成の一貫指導システムを中心としてジュニア選手の競技力向上を図るために、カテゴリーをU-19（高校生）・U-16（中学生）・U-13（小学生）に分けて強化を実施する。次期世界選手権大会等に備え有望新人を発掘の上、国内外合宿で育成強化を実施、国際大会（世界ジュニア）等に派遣、メダル獲得を目指す。

(4) 競技用具補助

国際大会出場選手に対し、競技用具を補助し、技術力の向上を図る。